令和８年度　第７回美里地域会議 会議録

日　時：令和８年１０月９日（金）午後７時～8 時
場　所：美里交流館　１階　多目的ホール
出席者：太田市長
　　＜地域会議委員＞加藤　智江、小林　健一、清水　幸男、鈴木　智映子、
　　鈴木　美喜世、高橋　重樹、手嶋　英之、野村　耕一、
　　原　淑子、吉本　勝、渡邉　慎大
　　＜地域活躍部＞　花木副部長
　　＜高 橋 支 所 ＞　前田支所長、太田副支所長、河野主査
傍　聴：７名

«内容»

１　豊田市民の誓いの唱和

２　会長挨拶

３　提言書手交・提言内容説明

野村会長から太田市長へ提言書を手渡し、その後、提言内容の要旨について説明を行った。

４　市長あいさつ

太田市長からあいさつがあり、今回の提言について次のとおり感想が述べられた。

・実態調査の結果に基づく具体的な提言であり、ぜひ支所と連携しながら事業を実現してほしい。
・ゴールのないテーマではあるが、できることをできる範囲で地道に継続していくことが重要である。

５　意見交換

今回の提言内容をはじめ、地域会議委員と市長による意見交換を行った。

（渡邊委員）

・高齢者支援では高齢者同士のつながりに目が向きがちだが、高齢者と若い世代とのつながりも重要だと思う。これからの地域社会において、若い世代にどのような役割を期待しているか伺いたい。

（市長）

・若い世代が地域活動に参加していることは大変素晴らしい。
・高齢者と若い世代の関係は、支援する側とされる側という一方通行のものではなく、高齢者が経験や知識を伝え、若い世代が学ぶという相互の関係が大切である。
・高齢者を支援の対象としてだけ捉えるのではなく、地域を支える担い手として活躍できる環境づくりが重要である。
・若い世代が高齢者のことを真剣に考えていることは、美里地区の強みであり、今後も続けてほしい。

（小林委員）

・地域活動に興味はあるものの、一歩を踏み出せない高齢者が多いと感じている。
・市の外出支援や公共交通施策の状況も踏まえ、高齢者の地域参加をどのように後押ししていく考えか伺いたい。

（市長）

・高齢になってから新たに地域活動へ参加することは容易ではなく、現役世代からのつながりづくりが重要である。
・地域参加を促すには、「活動内容が分かりやすいこと（特）」「社会的な意義があること（徳）」「参加するメリットがあること（得）」の３つのトクが重要である。
・参加を妨げる要因は交通手段だけではなく、意欲やきっかけづくりも大きく影響している。
・調査結果と実態とのギャップも踏まえながら施策を進める必要がある。

（原委員）

・高齢者が孤立せず安心して暮らすためには、徒歩圏内に気軽に立ち寄れる居場所が必要だと考えている。
・地域で居場所づくりをさらに進めていきたいが、市の考え方について伺いたい。

（市長）

・居場所づくりの充実は重要だが、徒歩圏内への一律整備は現実的には難しい。
・家族や近隣住民が日常的に声を掛け合う関係性の構築が重要である。
・自助・共助・公助に加え、近隣同士で支え合う「近助」の考え方が今後ますます重要になる。

（吉本委員）

・東山町の市営住宅では空き住戸が増加しており、地域にも影響が出ている。
・単身者向け住宅や福祉施設、地域交流の場としての活用などを検討してほしい。

（市長）

・いただいたご意見については、担当課へ伝えさせていただく。

6　市議あいさつ

会議を傍聴した岡田耕一議員、根本美春議員があいさつした。

7　事務連絡

（１）第８回美里地域会議

・日時　令和８年１１月１２日（木）午後７時～
・場所　美里交流館　２階　中会議室